

外国人とその支援者

有川かおり（生涯学習研究所）

1. 実態と課題

千葉県内には、約10万6千人の外国人が暮らしており、そのうち約1万人が松戸市で生活をしている。これは、千葉県にある54市町村の中で4番目に多い数値である。千葉県に暮らす外国人の数は、20年前は約5万8千人だったが、現在はその2倍近くになっている^{*1}。今後、さらに国際化が進むことが予想される中で、地域社会の一員として、外国人を対象とした生涯学習を整備していくことが急務となっている。

外国人の生涯学習に関する課題を整理すると、大きくは、1言語、2啓発、3施設、4人材育成、5学校・団体間の連携に分けることができる。以下、それぞれの状況を具体的に示す。

1) 言語

生涯学習に係わる講座案内の多くが、日本語である。また、その他の言語の案内があったとしても、英語・中国語であることが多く、それすら一部の講座しかカバーしていない。このような状況では、上記2カ国語以外の言語を母国語とする外国人にとって、講座へのアクセスがさらに困難な状況であり、外国人の学習権が保障された状況には至っていない。

2) 啓発

外国人であるという理由で、人権を侵害されるような事態もおきている。このことから、母国の文化・習慣を隠して生活せざるをえない外国人の実態がある。多文化理解に関する教育を生涯学習が担っていく必要がある。

3) 施設

外国人が気軽に集まり、交流できるようなサロン機能をもった施設が無い。また多言語表示等、施設のバリアフリー化は進んではいるが言語に偏りが有る等、充分ではない。

4) 人材育成・連携

市内には、国際交流に関する公益財団法人や認定NPO法人等があり、様々な活動を展開している。しかし、そういった活動を展開している人材を東ね教育していくことにまで至っていない。また、多言語を使用できる市民や、国際交流に興味の有る市民もいるが、彼らを育成し、活動への移行を支援するような仕組みが充分ではない。

5) 学校・団体間の連携

組織に注目してみると、個々の活動に完結してしまっており、団体間の連携が少ない。また、地域の学校と連携している団体が少ない。

2. コンセプトと目標設定

松戸市は、世界への玄関口である成田空港へ電車で1時間以内という好立地にある。また、都心へのアクセスも良く、立地的にめぐまれたまちである。前述のように、千葉県でも有数の外国人人口が多いまちでもある。そこで、外国人の生涯学習を考えるコンセプトとして、「文化・個性を發揮できる都市」を掲げたい。外国人を真の意味で、地域社会の一員として受け入れるためには、それぞれの国の文化・個性を認め合うことが必要である。このことは、多文化共生が求められている現代日本社会において、生涯学習における重要なテーマであるといえる。

3. 具体的な事業

上記のコンセプトを推進するためには何が必要か、具体的な事業等の例をあげる。

1 言語

- ・生涯学習に関する講座の多言語版案内を用意すると同時に、公共施設等の多言語表示をさらに充実させる。
- ・外国人が、母国語で相談できるような、窓口・ホットライン等を整備する。

2 啓発

- ・総合的な学習の時間等を活用し、子どもの頃から多文化理解に関する教育を行う。
- ・多文化料理教室を開催し、身近な「食」という切り口からの多文化理解をすすめる。
- ・国際交流フェスタを開催し、日本を含めた各国の文化を紹介しあう。

3 施設

- ・公民館や青少年会館等の生涯学習施設、民間のカフェ等を活用し、外国人が気軽に集まれ、交流できるような場をつくる。

4 人材育成・連携

- ・既に活動を展開している民間の団体が連携するための連合組織をつくる。
- ・多言語を使用できる市民や、国際交流に興味の有る市民を活動につなげられるような相談窓口を開設する。
- ・運動会や学芸会といった学校行事に、地域で暮らす外国人を積極的に招待し、交流をはかる。

※1 千葉県国際課調べ（2014年12月現在）

4. 期待と成果

上記のような取り組みにより、期待される効果は以下の通りである。①外国人であっても、自由に学習機会を選択して学ぶことができる ②他国の文化にふれることで、あらためて日本の良さ・悪さを再発見できる ③多文化理解に関する学習・活動を通して、国際的な視野を身に付けることができる

日本は成長戦略の一つとして、「観光」を掲げている。また、グローバル化のさらなる進展を通じて、今後も外国人の数が増えていくことが予想されている。そういった社会情勢の中で、上記の取り組みを一つずつ実現していくことが期待されている。

謝辞：この報告は、2014年8月30日(土)～31日(日)に聖徳大学生涯学習社会貢献センターで行ったワークショップでいただいたご意見を、筆者の責任でまとめたものです。産学官民それぞれの立場からご意見を下さった、7名のワークショップ参加者の皆様に心から感謝を申し上げます。



松戸市各種団体連携研究会・ワークショップ「外国人とその支援者グループ」1日目の様子（2014年8月30日実施）



松戸市各種団体連携研究会・ワークショップ「外国人とその支援者グループ」2日目の様子（2014年8月31日実施）

資料7 外国人とその支援者に関する事業(案)のクドバスチャート

<クドバスの成果>

事業例としては、次の7点が挙げられた。

1. 人材育成 2. 団体 3. 制度 4. 啓発 5. 学校との連携 6. 施設 7. 国際交流啓発

仕事	能力																				
	1-1	A	1-2	A	1-3	A	1-4	A	1-5	A	1-6	A	1-7	A	1-8	A	1-9	A	1-10	A	
1 人材育成	国際交流をすすめる団体のリーダーの研修		通訳、翻訳の育成、配置		外国人サポーターは日本人のみならず松戸在住の外国人に協力してもらう		国際ファシリテーターの養成、配置		国際コーディネーターの育成、配置		外国人サポート、各専門分野のサポート、養成、通訳(裁判、病院、学校)		外国人の世話をするボランティアを集める		外国人の方がボランティアできる(外国語)出来る方に悩み相談ができるという		松戸市の各HPの英文化		松戸国際コミュニケーション		
2 団体	国際交流をすすめる団体の交流		国際交流を行っている団体同士の交流の集まりをつくる		国際交流のまちをつくる!集会を開く(国際交流団体の方、興味のある方など)		日本語支援を考える会市内で小中学生に日本語支援をしているグループは3グループある		このグループ同士の情報交換		市内在住の外国人の各国代表を集める						2-9		2-10		
3 制度	外国人ホットラインをつくる。生活全般に困った時のサポート		国際インフォメーションデスク		日本語以外の言語がちょっとでも話せる人をつかってリスト化する(レベル分けも)		外国人用インフォメーションデスクの設置 for 生活ガイダンス		市全体で"国際都市まつど"をうたう		広報紙を利用して交流の場をもう少し増やす		介護施設での仕事も海外の人でもできるようにする		市のHPに50カ国の人の言語すべてでサービスをのせる		標識の多言語化(はたして英語だけではないのか)		多文化交流チームによる各地域イベントの出店		
	3-11	A	3-12	A	3-13	A	3-14	A	3-15	A	3-16		3-17		3-18		3-19		3-20		
	松戸市の予算で毎年何人かの学生をホームステイさせる		教えてくれる人がわかる		外国人相談コーナーをつくる(相談員を募る)		各言語(松戸にすんでいるかたの言語)ホットラインサービス		ささやかなことでも母国語で相談できる人が一人でもいるまち												
4 啓発	市内在住の外国人親子を調べる		東京オリンピックにむけ外国からのお客様への"おもてなし"を松戸市として考える		国際交流のためにあいさつ運動をはじめてはどうか		あいさつができる、声をかけられる		もっと小さい単位、小さいエリア毎に「日本語教室」を開催		茶道教室を小学校、中学校で開催(父母もよんで)		日本の伝統文化講座(連続)		日本文化を身近なところで教える		子どもにおもてなしを教える、大人と一緒に理解し合い外国の方におもてなしを実践する。各国の方々言語講座をひらいてもらう(公民館などで)				
5 学校との連携	5-1	A	5-2	A	5-3	A	5-4	A	5-5	A	5-6	A	5-7	A	5-8	A	5-9	A	5-10	A	
	人権学習(外国人差別)学校、公民館、企業などでひらく		小中学校で国際交流招待状などを送って行事に来てもらう		学校行事に参加		小学校の運動会に、地域に住んでいる外国籍の方を呼んで一緒に競技する		小中高の運動会に地域の外国人(外国人も含む)に招待状をおくりきってもらう		小学校の運動会に外国の方を招待し、一緒に競技や踊りが出来たらいい		おもてなしを考える研修会小学生として何をやる、学校単位で考える。考えるのは子ども中心小学校中学校のクラブ、部活に国際クラブをつくる		異文化交流係をつくる(学級の係で)		各学校で(もしくは学年で)国ごとの担当国ごとの担当をつくり、通年で学び、発表する機会をつくる。小中学校、大学で、文化祭や合唱、国際交流のイベントに招待する		小学校の総合の時間でタイ語を習う。先生はタイ人の子どもたち		
	5-11	A	5-12	A	5-13	A	5-14	A	5-15	A	5-16	A	5-17	A	5-18		5-19		5-20		
	小学校の総合の時間でフィリピン語を習う。(多言語)先生はフィリピン人の子どもたち		小中学校で国際交流①授業で学ぶ		小中学校で国際交流②PTA		小中学校、幼稚園で国際交流③家庭教育学級		小学校の総合の時間「世界にはいろいろな国があるね」の授業		総合の時間外国にルーツをもつ子どもたちが中心となって自分の国の紹介		小学校の道徳の時間に通年で"多文化の授業"をとりいれてその国の人に任せる(大人も交えて)								
6 施設	6-1	A	6-2	A	6-3	A	6-4	A	6-5	A	6-6	A	6-7	A	6-8	A	6-9		6-10		
	たまり場の所有者の研修		外国人の活動スペース		外国人のたまり場をつくる		図書館各国コーナー		国際子どもワーキングスペースの設置		町内会ごとに学習のたまり場を指定する		松戸多言語教室		国際アンテナショップの開設						
7 国際交流啓発	7-1	A	7-2	A	7-3	A	7-4	A	7-5	A	7-6	A	7-7	A	7-8	A	7-9	A	7-10	A	
	イベント国際交流フェスタ悩み事を解消ブース		毎月ごとに各国のおまつりを(中央公園などみんながきやすい場所をつかって大きく)		外国人の子どもの交流会を開く		こどもワールドカップサッカー(野球などでも)		松戸市子どもオリンピックを開催(外国人を含む)		松戸国際スポーツチームの設立		各国の料理(行事で)		各国の遊び、わらべ歌(行事で)		松戸まつりに外国の方も参加でき、料理や民族衣装をお互いに交流する		各国の昔ばなし(行事で)		
	7-11	A	7-12	A	7-13	A	7-14	A	7-15	A	7-16	A	7-17	A	7-18	A	7-19	A	7-20	A	
	国際交流フェスタ(お互いの文化紹介)出番をつくる		松戸市民と海外の方が交流できる祭りを考える		子ども国連をつくる(出身国に誇りを持つ)多文化共生		松戸市世界子ども会議		〇〇さんの話を聴こう多文化を理解する講演会		着物を着ることのできるイベントをもっとする。タンスにねている着物をあつめて無料貸し出し		季節を楽しむイベント		各国のあいさつ(行事で)		市の文化祭を「多文化文化祭」にする		松戸国際アニメフェス		

注：2014年8月、国際交流グループ 岩田美紀(聖徳大学)、海老名みさ子(認定NPO法人外国人の子どものための勉強会)、影山貴大(NPO法人 ShakeHands)、菅井のり子(松戸市なぎなた連盟)、土公垂樹子(松戸市教育委員会)、福岡強(松戸市社会教育委員会)、森めぐみ(松戸市社会教育委員会)計7名で作成。